

第4 相談援助係

1 技術指導及び技術援助

(1) 事業の目的

地域精神保健福祉活動を推進するため、精神保健福祉の専門的中枢機関として、保健福祉事務所をはじめ各種関係機関に対して技術指導及び技術援助を行っている。

(2) 事業の実績

平成22年度の技術指導・援助件数は33件であり、対象者別延人数は1,716人であった。

	実施日	事業内容	主催者	対象者	出席人数	対応職種
1	H22.5.31	職場におけるメンタルヘルス	草津町健康推進課	介護支援専門員、介護サービス事業所職員	19	保健師:1名
2	H22.6.23	学生のメンタルヘルス支援	明和学園短期大学	明和学園短期大学教職員	20	医師:1名
3	H22.6.30	「もの忘れ検診」受診者の医療機関紹介者への対応	みどり市健康管理課	もの忘れ検診受診者	4	保健師:1名
4	H22.6.30	「もの忘れ検診」受診者の医療機関紹介者への対応	みどり市健康管理課	もの忘れ検診受診者	4	保健師:1名
5	H22.7.2	精神保健福祉研修会	高崎市障害福祉課	高崎市職員	100	医師:1名
6	H22.7.6	「もの忘れ検診」受診者の医療機関紹介者への対応	みどり市健康管理課	もの忘れ検診受診者	2	医師:1名 保健師:1名
7	H22.7.13	事業所の人事・総務担当者及び管理者向けのメンタルヘルス疾患の基礎知識と対応について	群馬県自動車販売健康保険組合	事業所の人事、総務担当者、管理職	51	医師:1名
8	H22.7.21	うつ病とその予防について	玉村町健康福祉課	玉村町保健推進員	33	医師:1名
9	H22.7.22	メンタルヘルス対策からみた職場づくり	群馬県総合教育センター	新任の小・中・高・特の校長	109	医師:1名
10	H22.7.24	依存症の方の支援について(事例をととした具体的な支援)	看護協会沼田地区支部	地区支部の医療従事者(看護職)	29	医師:1名
11	H22.7.24	精神疾患の基本的理解と自殺行動について	群馬司法書士会	群馬司法書士会員	64	医師:1名
12	H22.8.6	教職員のメンタルヘルス、自分の心の健康管理、児童生徒のメンタルヘルス	群馬県総合教育センター	養護教員	68	医師:1名
13	H22.8.19	適応障害、パニック障害	こころの応援団	応援団員、一般、当事者	35	医師:1名
14	H22.8.27	特別な配慮を要する子どもへの理解と学校での対応	高崎市立東部小学校	幼・小・中の教職員	106	医師:1名
15	H22.8.30	「もの忘れ検診」受診者の医療機関紹介者への対応	みどり市健康管理課	もの忘れ検診受診者	4	保健師:1名
16	H22.9.15	高次脳機能障害の障害特性と支援上の留意点について	群馬障害者職業センター	当センター、公共職業安定所、障害者就労支援機関の職員	21	医師:1名

	実施日	事業内容	主催者	対象者	出席人数	対応職種
17	H22.9.21	精神保健福祉相談の受け方 -自殺をほのめかされた時の対応-	伊勢崎保健福祉事務所	医療機関精神保健福祉士、障害者自立支援事業所指導員、市町職員	25	医師:1名
18	H22.9.30	こころの健康づくり	藤岡市健康推進員協議会	藤岡市健康推進員	79	保健師:1名
19	H22.10.2	「こころとお金」の無料相談会	群馬司法書士会	相談会来所者	4	心理士:1名
20	H22.10.13	認知症高齢者等について	県健康福祉部施設指導課	指定通所リハビリテーション事業所の従業員	134	医師:1名
21	H22.11.18	人格障害の種類と症状と対応方法	こころの応援団	応援団員、一般、当事者	28	医師:1名
22	H22.11.24	働く人のメンタルヘルスについて	健康保険組合連合会群馬連合会	各健康保険組合の職員	22	保健師:1名
23	H22.12.15	高齢期におけるこころの健康問題と自殺対策、支援者のメンタルヘルス	藤岡保健福祉事務所	市町村職員、居宅介護支援事業所職員、居宅介護サービス事業所職員等	46	医師:1名 保健師:1名
24	H23.1.24	うつ病の認知行動療法	館林保健福祉事務所	館林保健福祉事務所管内市町保健・福祉担当者	11	医師:1名
25	H23.1.28	メンタルヘルスの基礎知識、こころの健康について	群馬県社会福祉事業団	群馬県社会福祉事業団職員	37	医師:1名
26	H23.2.2	精神疾患の理解と正しい対応	高崎市障害福祉課	高崎市民生委員、児童委員	221	医師:1名
27	H23.2.4	メンタルヘルスの基礎知識、こころの健康について	群馬県社会福祉事業団	群馬県社会福祉事業団職員	38	医師:1名
28	H23.2.9	心の病の理解と、相談者への対応	高崎市人権擁護委員会	人権擁護委員、高崎市職員	34	医師:1名
29	H23.2.9	自殺予防対策、こころの健康	沼田市民生部社会福祉課	沼田市民生委員、児童委員	125	保健師:1名
30	H23.2.17	自殺危機初期介入スキルワークショップ	館林保健福祉事務所	管内保健師	20	保健師:1名
31	H23.2.21	薬物乱用による弊害、乱用の実態について	館林保健福祉事務所	薬物乱用防止指導員、「ダメ。ゼッタイ。」運動館林邑楽地区推進連絡協議会構成員	37	医師:1名
32	H23.3.3	新入社員のメンタルヘルス	前橋商工会議所	前橋市内事業所の新入社員	115	医師:1名
33	H23.3.17	新入社員のメンタルヘルス	桐生地域職業訓練センター	桐生市内事業所の新入社員	71	保健師:1名
	合計				1716	

2 精神保健福祉相談

(1) 電話相談

1) 事業の目的

県民が気軽にこころの悩みや不安について相談し、こころの健康を回復できることを目的として実施する。

2) 事業の実績

土日祝日を除く午前9時から午後5時まで、嘱託相談員2名を配置し、2回線の専用電話で行った。

延相談件数は3,533件、うち実相談件数は1,861件となっている。延相談件数の減少傾向と比較し、実件数はほとんど変化が見られないことから、1日に複数回利用するリピーターに対して、自分の力で問題解決できるような援助をした結果と思われる。

相談対象者

延相談件数で見ると、自分のことの相談が64.6%と最も多く、次いで子供のことが16.8%、配偶者が5.2%、その他の親族が5.1%、親のことが2.2%であった。

相談経路

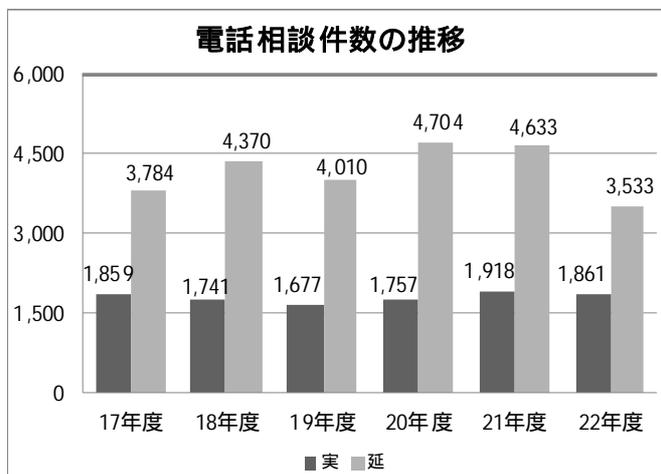
実相談件数では保健・福祉関係が23.1%で最も多く、次に新聞・広報等18.7%、インターネット16.8%であった。

相談の内容

実相談件数を見ると、精神的な病気・障害に関するこころの不安・疑問・対応方法が36.4%と最も多かった。次いで診療機関・相談機関に関するこころのことが17.6%、当センターに関するこころのことが5.9%、対人関係及び心理的なことで家庭内のこころのことが5.5%、行動上の問題に関するこころのその他の嗜癖3.7%、行動上の問題に関するこころの社会的問題行動が2.0%であった。延相談件数では、対人関係及び心理的なことで話したい(頻回利用)が28.1%と目立っている。

電話相談件数の推移(単位: 件)

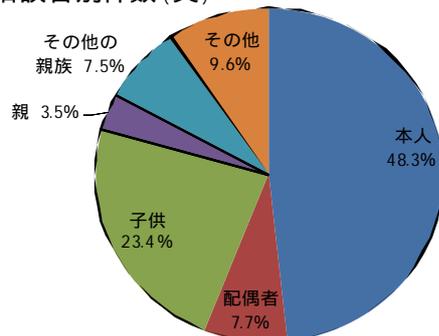
年度	実	延
17年度	1,859	3,784
18年度	1,741	4,370
19年度	1,677	4,010
20年度	1,757	4,704
21年度	1,918	4,633
22年度	1,861	3,533



対象者別相談件数

被相談者	実		延	
	件数	率(%)	件数	率(%)
本人	898	48.3%	2282	64.6%
配偶者	144	7.7%	185	5.2%
子供	435	23.4%	593	16.8%
親	66	3.5%	79	2.2%
その他の親族	140	7.5%	180	5.1%
その他	178	9.6%	214	6.1%
計	1861	100.0%	3533	100.0%

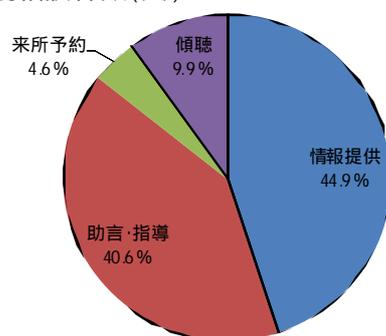
相談者別件数(実)



対応別相談件数

対応	実		延	
	件数	率(%)	件数	率(%)
情報提供	836	44.9%	1040	29.4%
助言・指導	755	40.6%	1378	39.0%
来所予約	85	4.6%	135	3.8%
傾聴	185	9.9%	980	27.7%
計	1861	100.0%	3533	100.0%

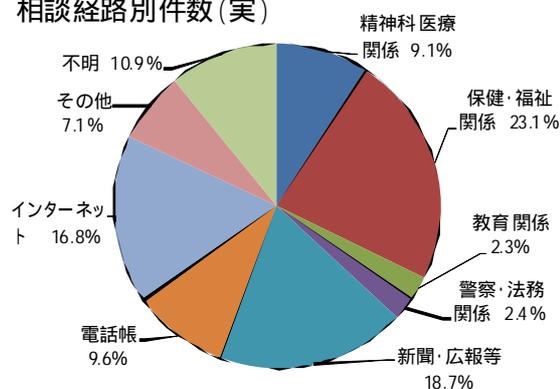
対応別相談件数(実)



相談経路別相談件数

相談経路	実		延	
	件数	率(%)	件数	率(%)
精神科医療関係	170	9.1%	286	8.1%
保健・福祉関係	430	23.1%	946	26.8%
教育関係	43	2.3%	53	1.5%
警察・法務関係	45	2.4%	61	1.7%
新聞・広報等	348	18.7%	440	12.5%
電話帳	178	9.6%	341	9.7%
インターネット	313	16.8%	363	10.3%
その他	132	7.1%	225	6.4%
不明	202	10.9%	818	23.2%
計	1861	100.0%	3533	100.0%

相談経路別件数(実)



相談時間別相談件数

相談時間	実		延	
	件数	率(%)	件数	率(%)
10分未満	805	43.3%	1978	56.0%
10分～30分未満	948	50.9%	1406	39.8%
30分～60分未満	104	5.6%	141	4.0%
60分以上	4	0.2%	8	0.2%
計	1861	100.0%	3533	100.0%

相談対象者の年齢別・男女別相談件数

	年齢区分	男性		女性		不明		計	
		件数	率(%)	件数	率(%)	件数	率(%)	件数	率(%)
実	0～9歳	9	1.2%	7	0.7%	3	3.8%	19	1.0%
	10～19	73	9.5%	84	8.3%	6	7.7%	163	8.8%
	20～29	153	19.9%	136	13.4%	3	3.8%	292	15.7%
	30～39	138	18.0%	192	18.9%	2	2.6%	332	17.8%
	40～49	91	11.9%	216	21.3%	0	0.0%	307	16.5%
	50～59	62	8.1%	128	12.6%	0	0.0%	190	10.2%
	60～	71	9.3%	87	8.6%	1	1.3%	159	8.5%
	不明	170	22.2%	166	16.3%	63	80.8%	399	21.4%
	計	767	100.0%	1016	100.0%	78	100.0%	1,861	100.0%
延	0～9	10	0.8%	7	0.3%	3	3.2%	20	0.6%
	10～19	109	8.4%	100	4.7%	6	6.3%	215	6.1%
	20～29	237	18.3%	185	8.6%	4	4.2%	426	12.1%
	30～39	242	18.7%	386	18.0%	3	3.2%	631	17.9%
	40～49	131	10.1%	372	17.4%	0	0.0%	503	14.2%
	50～59	182	14.1%	373	17.4%	0	0.0%	555	15.7%
	60～	98	7.6%	162	7.6%	2	2.1%	262	7.4%
	不明	285	22.0%	559	26.1%	77	81.1%	921	26.1%
	計	1294	100.0%	2144	100.0%	95	100.0%	3,533	100.0%

相談内容別相談件数

内 容	実		延		
	件数	率(%)	件数	率(%)	
精神的な病気・障害に関すること	不安・疑問・対応方法	677	36.4%	1025	29.0%
	診療機関・相談機関	327	17.6%	393	11.1%
行動上の問題に関すること	家庭内暴力	35	1.9%	49	1.4%
	引きこもり	39	2.1%	49	1.4%
	不登校	22	1.2%	33	0.9%
	不適応	11	0.6%	15	0.4%
	社会的問題行動	37	2.0%	51	1.4%
	食行動の異常	17	0.9%	18	0.5%
	その他の嗜癖	69	3.7%	94	2.7%
	虐待 その他	3 12	0.2% 0.6%	4 17	0.1% 0.5%
対人関係及び心理的なこと	家庭内のこと	102	5.5%	154	4.4%
	友人・近隣・恋人	29	1.6%	54	1.5%
	職場内のこと	30	1.6%	37	1.0%
	心理的な相談・自分の性格	19	1.0%	32	0.9%
	話したい(頻回利用)	82	4.4%	994	28.1%
制度・福祉的なこと	施設に関すること	17	0.9%	25	0.7%
	経済的なこと	24	1.3%	31	0.9%
	就 労	43	2.3%	57	1.6%
	日常生活	13	0.7%	18	0.5%
	その他の法・制度	62	3.3%	87	2.5%
教育に関すること	学 校	10	0.5%	15	0.4%
	子育て・養育	15	0.8%	16	0.5%
当センターに関すること	当センターに関すること	109	5.9%	172	4.9%
その他	その他	57	3.1%	93	2.6%
計		1861	100.0%	3533	100.0%

(2) メール相談

1) 事業の目的

電子メールのメリットを生かした相談を行うことにより、県民が気軽にこころの悩みや不安について相談できる機会を増やし、それによりこころの健康を回復できる一助となることを目的として実施する。

2) 事業の実績

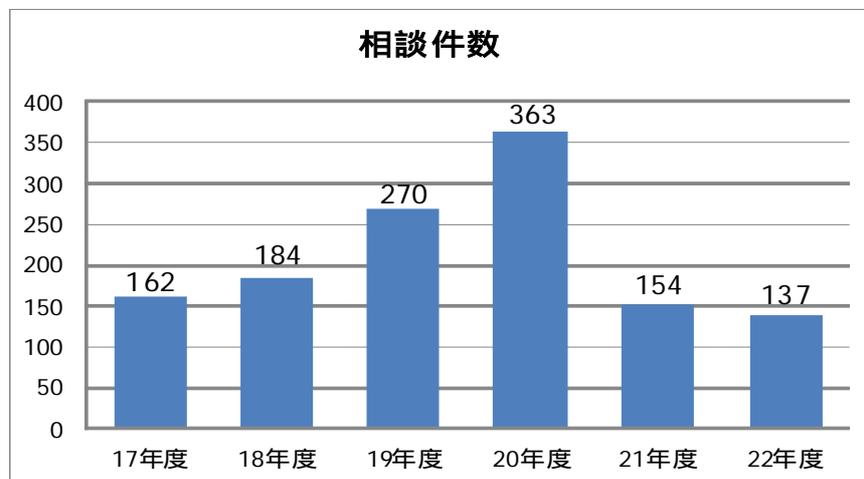
メールの受信は24時間とし、返信は土日祝日を除いた平日に行った。相談の延件数は137件であった。

相談の内容

心理的な相談・自分の性格が19.7%で最も多く、精神的な病気・障害に関することの不安・疑問・対応方法が19.0%と、次いで多かった。

受付時間帯

22時01分～8時59分が32.8%で最も多かった。電話相談等相談窓口開設時間外の17時01分～8時59分に6割近く(59.1%)の相談が寄せられた。



相談内容別相談件数

相 談 内 容		件数	率(%)
精神的な病気・障害に関すること	不安・疑問・対応方法	26	19.0%
	診療機関・相談機関	14	10.2%
行動上の問題に関すること	家庭内暴力	0	0.0%
	引きこもり	1	0.7%
	不登校	0	0.0%
	不 適 応	2	1.5%
	社会的問題行動	3	2.2%
	食行動の異常	2	1.5%
	その他の嗜癖	0	0.0%
	虐 待	0	0.0%
	そ の 他	0	0.0%
	対人関係及び心理的なこと	家庭内のこと	10
友人・近隣・恋人		1	0.7%
職場内のこと		2	1.5%
心理的な相談・自分の性格		27	19.7%
話したい(頻回利用)		23	16.8%
制度・福祉的なこと	施設に関すること	3	2.2%
	経済的なこと	4	2.9%
	就 労	0	0.0%
	日 常 生 活	0	0.0%
	その他の法・制度	0	0.0%
教育に関すること	学 校	1	0.7%
	子育て・養育	0	0.0%
当センターに関すること	当センターに関すること	5	3.6%
そ の 他	そ の 他	13	9.5%
計		137	100.0%

受付時間帯

受付時間	件数	率(%)
9:00 ~ 12:00	17	12.4%
12:01 ~ 17:00	39	28.5%
17:01 ~ 22:00	36	26.3%
22:01 ~ 8:59	45	32.8%
計	137	100.0%

(3) 来所相談

1) 事業の目的

県民がこころの悩みについて、面接相談を受け、対処の方法のアドバイスを受けることによって、こころの健康を回復できることを目的として実施する。

2) 事業の実績

児童思春期、依存症、うつ及びひきこもり等専門の相談を医師、保健師、心理士が実施した。

延相談件数は154件で、昨年より65件減少した。

相談の来所者

実相談件数を見ると、家族のみが46.1%で最も多く、次いで本人と家族が28.7%、本人のみが21.7%であった。約半数の相談に本人が来所した。

年齢別に見ると、10代が18.3%、20代が20.9%、30代が25.2%であった。

来所経路

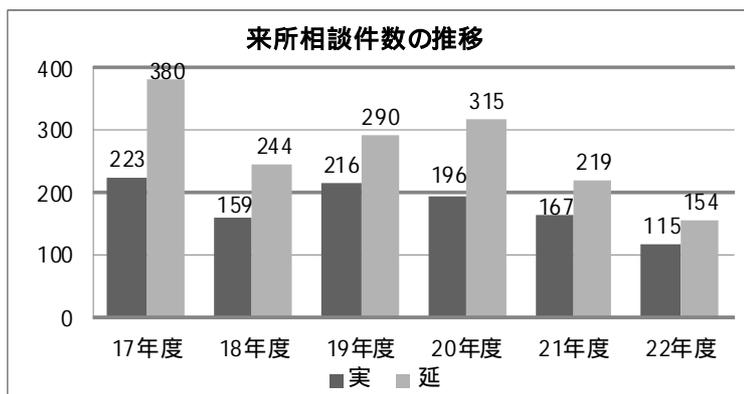
初回相談の相談経路を見ると、インターネットが15.2%で最も多く、次に新聞・広報が14.1%、精神科医療機関13.1%であった。

相談の内容

延相談件数を見ると、精神的な病気・障害に関することの不安・疑問・対応方法が42.2%で最も多く、次いでひきこもりが12.3%、社会的問題行動が11.0%であった。

来所相談件数の推移

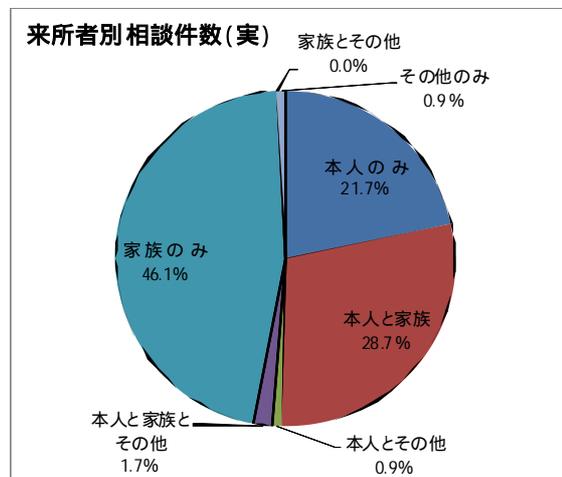
年度	実		延	
	件数	率(%)	件数	率(%)
17年度	223	21.7%	380	18.8%
18年度	159	28.7%	244	37.7%
19年度	216	0.9%	290	1.3%
20年度	196	1.7%	315	3.9%
21年度	167	0.0%	219	0.0%
22年度	115	0.9%	154	0.6%
計	115	100.0%	154	100.0%



来所者別相談件数

相談者	実		延	
	件数	率(%)	件数	率(%)
本人のみ	25	21.7%	29	18.8%
本人と家族	33	28.7%	58	37.7%
本人とその他	1	0.9%	2	1.3%
本人と家族とその他	2	1.7%	6	3.9%
家族のみ	53	46.1%	58	37.7%
家族とその他	0	0.0%	0	0.0%
その他のみ	1	0.9%	1	0.6%
計	115	100.0%	154	100.0%

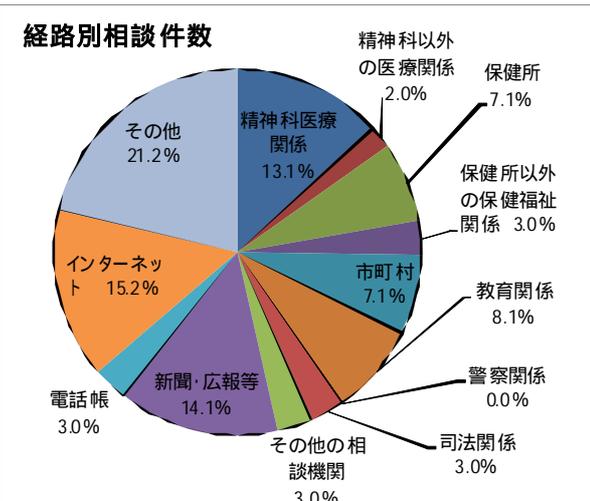
来所者別相談件数(実)



経路別相談件数(初回のみ)

経路	件数	率(%)
精神科医療関係	13	13.1%
精神科以外の医療関係	2	2.0%
保健所	7	7.1%
保健所以外の保健福祉関係	3	3.0%
市町村	7	7.1%
教育関係	8	8.1%
警察関係	0	0.0%
司法関係	3	3.0%
その他の相談機関	3	3.0%
新聞・広報等	14	14.1%
電話帳	3	3.0%
インターネット	15	15.2%
その他	21	21.2%
計	99	100.0%

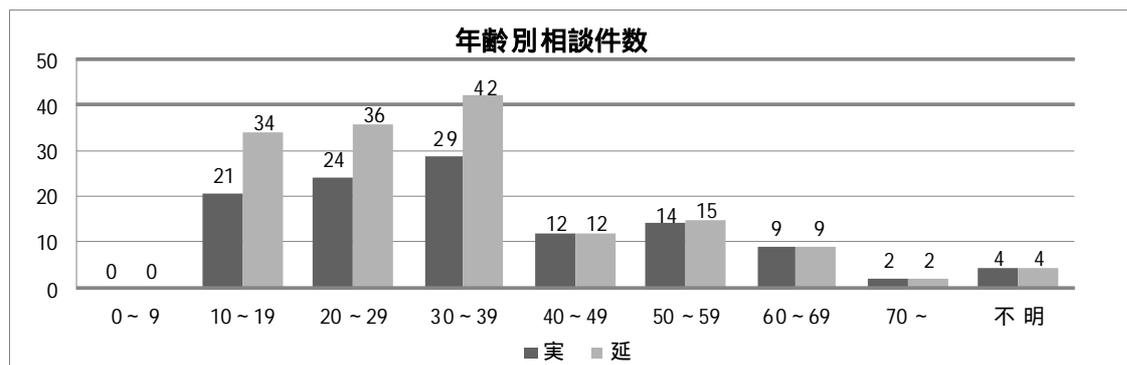
経路別相談件数



年齢別相談件数

	年齢区分	男性		女性		計	
		件数	率(%)	件数	率(%)	件数	率(%)
実	0～9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	10～19	12	17.4%	9	19.6%	21	18.3%
	20～29	18	26.1%	6	13.0%	24	20.9%
	30～39	17	24.6%	12	26.1%	29	25.2%
	40～49	6	8.7%	6	13.0%	12	10.4%
	50～59	7	10.1%	7	15.2%	14	12.2%
	60～69	6	8.7%	3	6.5%	9	7.8%
	70～	2	2.9%	0	0.0%	2	1.7%
	不明	1	1.4%	3	6.5%	4	3.5%
	小計	69	100.0%	46	100.0%	115	100.0%
延	0～9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	10～19	19	20.4%	15	24.6%	34	22.1%
	20～29	26	28.0%	10	16.4%	36	23.4%
	30～39	25	26.9%	17	27.9%	42	27.3%
	40～49	6	6.5%	6	9.8%	12	7.8%
	50～59	8	8.6%	7	11.5%	15	9.7%
	60～69	6	6.5%	3	4.9%	9	5.8%
	70～	2	2.2%	0	0.0%	2	1.3%
	不明	1	1.1%	3	4.9%	4	2.6%
	小計	93	100.0%	61	100.0%	154	100.0%

年齢別相談件数



相談内容別相談件数

相 談 内 容		実		延	
		件数	率(%)	件数	率(%)
精神的な病気・障害に関すること	不安・疑問・対応方法	52	45.2%	65	42.2%
	診療機関・相談機関	2	1.7%	2	1.3%
行動上の問題に関すること	家庭内暴力	3	2.6%	3	1.9%
	引きこもり	10	8.7%	19	12.3%
	不登校	7	6.1%	7	4.5%
	不適応	2	1.7%	5	3.2%
	社会的問題行動	13	11.3%	17	11.0%
	食行動の異常	0	0.0%	0	0.0%
	その他の嗜癖	8	7.0%	9	5.8%
	虐待	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%
対人関係及び心理的なこと	家庭内のこと	2	1.7%	2	1.3%
	友人・近隣・恋人	0	0.0%	0	0.0%
	職場内のこと	0	0.0%	0	0.0%
	心理的な相談・自分の性格	6	5.2%	10	6.5%
	話したい(頻回利用)	0	0.0%	0	0.0%
制度・福祉的なこと	施設に関すること	0	0.0%	0	0.0%
	経済的なこと	0	0.0%	0	0.0%
	就 労	3	2.6%	3	1.9%
	日常生活	1	0.9%	1	0.6%
	その他の法・制度	4	3.5%	4	2.6%
教育に関すること	学 校	2	1.7%	7	4.5%
	子育て・養育	0	0.0%	0	0.0%
当センターに関すること	当センターに関すること	0	0.0%	0	0.0%
その他	そ の 他	0	0.0%	0	0.0%
計		115	100.0%	154	100.0%

診断区分(ICD10)別相談件数

診 断	実		延	
	件数	率(%)	件数	率(%)
症状性を含む器質性精神障害	7	6.1%	9	5.8%
精神作用物質による障害	20	17.4%	21	13.6%
統合失調症・分裂型障害・妄想性障害	8	7.0%	8	5.2%
気分(感情)障害	6	5.2%	6	3.9%
神経症・ストレス関連障害・身体表現性障害	12	10.4%	15	9.7%
生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群	0	0.0%	0	0.0%
成人の人格・行動の障害	6	5.2%	7	4.5%
精神遅滞	1	0.9%	3	1.9%
心理的発達障害	7	6.1%	24	15.6%
小児期・青年期の障害	0	0.0%	0	0.0%
そ の 他	5	4.3%	5	3.2%
診断保留・未診断	37	32.2%	50	32.5%
異常と認めず	6	5.2%	6	3.9%
計	115	100.0%	154	100.0%

3 薬物依存症者の家族教室

(1) 事業の目的

薬物依存問題を抱える家族が薬物依存症を理解し、家族として本人への対応方法等を学ぶ。また、自分の意見や考えを述べたり他の人の話を聞く中で自分の問題を見つめ直すことによって薬物依存症者および家族の問題解決を促す。薬物以外の依存症者の家族も参加している。

(2) 事業実績

1) 内容

前半は講義、後半はミーティング

開催日	講義テーマ
4月13日	薬物依存とは 講師：県こころの健康センター 医師 芦名 孝一
5月13日	当事者からのメッセージ 講師：日本ダルクアウェイクニングハウス（2人）
6月8日	家族の対応 講師：赤城高原叔父 精神保健福祉士 相澤 秀子
7月13日	家族の対応 講師：赤城高原叔父 精神保健福祉士 相澤 秀子
8月10日	家族ミーティング（フリートーク）
9月14日	家族からのメッセージ 講師：群馬DA（ドラッグ・アクション）家族会（2人）
10月12日	薬物依存とは 講師：県こころの健康センター 医師 芦名 孝一
11月9日	家族の対応 講師：赤城高原叔父 精神保健福祉士 永尾 奈生実
12月14日	家族の対応 講師：赤城高原叔父 精神保健福祉士 永尾 奈生実
23年	当事者からのメッセージ
1月11日	講師：群馬ダルク（3人）
2月8日	家族からのメッセージ 講師：群馬DA（ドラッグ・アクション）家族会（2人）
3月8日	家族ミーティング（フリートーク）

2) 参加者

実施回数	参加者延人数
12回	67人

4 依存症相談担当者研修

依存症に対する援助についての知識を普及し、相談担当者の相談技術向上と関係機関の連携を図るために開催した。

(1) 依存症相談員ステップアップ研修(2日間コース)

日程	対象	内容・講師等	参加人数
平成22年 12月2日 (木)	保健、医療、 福祉、教育、 司法、警察 等の関係機 関において 相談に従事 する者	「依存症総論～嗜癖について～」 赤城高原ホスピタル副院長 医師 村山昌暢 「司法行政の対応」 県薬務課 麻薬・監視係 「当事者からのメッセージ」 群馬ダルク、日本ダルクアウェイクニングハウ ス、ピック・ラブ・クルー	35名
平成22年 12月8日 (水)		「相談の受け方・つなげ方」 赤城高原ホスピタル 精神保健福祉士 相澤秀子 「模擬ミーティング」 群馬ダルク、日本ダルクアウェイクニングハウ ス、ピック・ラブ・クルーの当事者メンバー 「こころの健康センターの事業について」 こころの健康センター 相談援助係	38名

(2) 相談窓口担当者研修

日程	対象	内容・講師等	参加人数
平成23年 2月19日 (土)	保健、医療、 福祉、教育、 司法、警察 等の関係機 関において 相談に従事 する者	「依存症の理解と援助～援助者に求められるもの～」 国立精神・神経医療研究センター病院 医師 小林桜児 「当事者・家族からのメッセージ」 群馬ダルク、日本ダルクアウェイクニングハウ ス、ピック・ラブ・クルー、群馬DA(ドラック・アデ ィクション)家族会 「県内薬物乱用状況及び薬物対策事業」 県薬務課 麻薬・監視係	104名

5 高次脳機能障害者と家族の教室

(1) 事業の目的

当事者とその家族に対して、高次脳機能障害や社会資源に関する知識の普及、相談、レクリエーション等を実施することにより、社会復帰の促進を図る。

(2) 事業の実績

1) 内容

毎月2回、第1・第3水曜日に実施。ミニ講座、認知リハビリテーション、家族ミーティング、レクリエーション等を行った。

開催日 (第1水曜)	内容	開催日 (第3水曜)	内容
		H22 5月19日	ミニ講座「高次脳機能障害Q&A」
6月2日	認知リハ/家族ミーティング	6月16日	ミニ講座「家庭でできる訓練」
7月7日	認知リハ/家族ミーティング	7月21日	軽スポーツ
8月4日	認知リハ/家族ミーティング		
9月1日	SAKURAお楽しみ会(調理実習)	9月15日	認知リハ/家族ミーティング
10月6日	作品作り/家族ミーティング	10月20日	作品作り/家族ミーティング
		11月17日	軽スポーツ
12月1日	認知リハ/家族ミーティング	12月15日	SAKURAお楽しみ会(クリスマス会)
		H23 1月19日	認知リハ/家族ミーティング
2月2日	認知リハ/家族ミーティング	2月16日	ミニ講座「就労について」
3月2日	認知リハ/家族ミーティング	3月16日	ランチピン(グループの話し合い) (東北地方太平洋沖地震のため中止)

2) スタッフ

精神科医師(嘱託)、保健師、心理士、作業療法士(嘱託)、精神保健福祉ボランティアグループ SAKURA

3) 参加者状況

参加人数(単位:人)

	実	延
当事者	13	105
家族	13	83
その他	33	43
計	59	231

当事者年齢・性別(単位:人)

年齢	男		女		計	
	実	延	実	延	実	延
10代	0	0	0	0	0	0
20代	3	20	0	0	3	20
30代	3	22	1	13	4	35
40代	2	30	0	0	2	30
50代	2	14	1	1	3	15
60代以上	1	5	0	0	1	5
計	11	91	2	14	13	105

当事者原因疾患(単位:人)

疾患名	
脳腫瘍	0
脳出血・脳梗塞	2
くも膜下出血	2
交通事故	6
スポーツ事故	2
その他	1
計	13

6 高次脳機能障害者支援事業

高次脳機能障害の医学的リハビリテーションを専門医師から学ぶことを通して、医療機関及び福祉機関における支援者を育成し、当事者及び家族の支援の質の向上を図るために開催した。

(1) 高次脳機能障害専門研修

日程	対象	内容・講師等	延参加人数
平成23年1月15日(土)	医療系専門職、福祉施設職員、市町村の障害者自立支援担当職員、当事者、家族等	・ 高次脳機能障害の精神症状へのアプローチ 東京福祉大学社会福祉学部 教授 先崎 章 ・ 高次脳機能障害支援拠点機関の取り組み 前橋赤十字病院 医療社会事業課長 中井 正江	112人

7 ひきこもりの家族教室

(1) 事業の目的

「ひきこもり」の状態の者の家族支援の一貫として、本人はもとより家族が抱えている「社会生活からの孤立」、「疲労困憊の状態」、「心理的及び活動的にもひきこもってしまった」等の困難な状況に対し、相談機関として継続的に関わりを持つことと家族同士が自分達の体験を共有することにより孤立感を和らげ、家族自身が元気を取り戻し、相互に援助しあえる場を提供する。

(2) 事業実績

1) 内容

9・12月を除く第4木曜日 午後1時30分～4時に開催。

前半はウォーミングアップと話題提供、休憩をはさんでグループミーティング

開催日	話題提供
4月22日	不登校やひきこもりを通じて親と子どもの心の健康を考える 県こころの健康センター 浅見所長
5月27日	不登校やひきこもりを通じて親と子どもの心の健康を考える 県こころの健康センター 浅見所長
6月24日	子どもとの接し方～コミュニケーションを考える～ 県こころの健康センター 阿部主幹
7月22日	地域若者サポートステーションで出来る事 ぐんま若者サポートステーション 太田和雄 氏
8月26日	引きこもりに関係するこころの病気について 県こころの健康センター 木村医長
10月28日	精神保健福祉の一般的な社会資源について 県こころの健康センター 増田主幹
11月25日	1, SST(生活技能訓練)を理解する 県こころの健康センター 浅見所長 2, SST(生活技能訓練)の実際 県こころの健康センター 藤倉主幹
23年 1月27日	1, 精神的な疲れの対応 県こころの健康センター 浅見所長 2, SST(生活技能訓練)の実際 ゴ-サインとノ-サイン 県こころの健康センター 藤倉主幹
2月24日	地域若者サポートステーションの活動 ぐんま若者サポートステーション 太田和雄 氏
3月10日	グループミーティング：自分ができるようになりたい事 (その後、家族だけでフリートーク)

実施回数	参加者延人数
10回	68人

8 自殺防止対策事業

(1) 事業の目的

深刻な社会問題となっている自殺を予防するために、自殺に対する正しい知識の普及啓発、自殺のサインに気づき早期対応するための相談体制の充実、及び自死遺族・自殺未遂者への支援等の事業を実施する。

(2) 事業の実施

<p>1 検討組織・推進体制</p>	<p>(1)「群馬県自殺対策連絡協議会」の開催 第1回 平成22年7月7日 第2回 平成23年2月2日</p> <p>(2)「自殺対策市町村・保健福祉事務所担当課長等会議」の開催 平成22年5月27日</p>
<p>2 普及啓発・実態把握</p>	<p>(1)「前橋市をモデル地区指定し事業」を実施(自殺予防月間) 自殺予防月間啓発キャンペーンの実施 平成22年9月4日：県庁県民ホールで開催 参加者数 385人 ・自殺予防に関するクイズを実施し、クイズに回答してもらった方に協賛企業からの景品をプレゼントした。 上毛新聞、『自殺予防月間啓発キャンペーン』、『自殺予防講演会』の記事掲載</p> <p>(2)「市町村への協力依頼」(自殺予防月間) 月間中、リーフレット、ポケットティッシュを配布し、活用依頼</p> <p>(3)「自殺予防講演会の実施」(自殺予防月間) 日時：平成22年9月4日 13:30～15:00 場所：県庁 281階義室 202人 演題：「地域で自殺のサインに気づき、見守り、つなぐために」 講師：張 賢徳氏 (帝京大学医学部附属溝口病院 精神神経科教授) (講演会の広報活動) ・平成22年7月9日：前橋市民生委員児童委員連絡協議会地区会長会 参加者 20名 ・平成22年7月16日：群馬県単位民生委員児童委員協議会長研修会 参加者 176名 ・平成22年7月20日：前橋市城南地区民生委員定例会 参加者 31名 ・平成22年8月6日：高崎市民生委員児童委員連絡協議会地区会長会 参加者 33名 ・平成22年8月9日：前橋市永明地区民生委員定例会 参加者 44人 ・平成22年8月19日：前橋市中川地区民生委員定例会 参加者 21名</p> <p>(4)「その他の普及啓発・実態把握」 新入社員への普及啓発事業 平成23年3月3日：前橋商工会議所主催 新入社員研修会 参加者 115人 平成22年3月17日：桐生地域職業訓練センター新入社員教養講座 参加者 71人 東京福祉大学、県民健康科学大学の学園祭にてパンフレット等を配布 高崎市民向け講演会への講師派遣(2/2 高崎市役所)</p> <p>(5)「パンフレット等の作成・配布」</p>

	<p>パンフレット等の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防パンフレット、睡眠障害予防リーフレット ・相談窓口一覧カード入りポケットティッシュ <p>パンフレットの配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会けんぽ群馬支部会員への配布 ・藤岡市成人式にて配布（藤岡保健福祉事務所） ・太田市健康まつりにて配布（東部保健福祉事務所） ・各種講演会参加者（県内） <p>(6)「自殺予防と遺族支援のための基礎調査」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度は自死遺族の協力を得ることができなかったため実施なし。
<p>4 相談体制の充実</p>	<p>(1)「CRPシステム」の本格実施</p> <p>(2)「多重債務者相談会」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活課と共催で 15 回実施。こころの健康相談来所者 88 人 ・司法書士会開催「こころとお金」無料相談会 こころの健康相談来所者 4 人 <p>(3)面接、電話、メールによる相談</p>
<p>5 人材育成（ゲートキーパーの養成）</p>	<p>(1)ゲートキーパー養成研修（自殺危機初期介入スキルワークショップ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年 1 月 13 日：こころの健康センター開催 参加者 20 人 ・平成 23 年 2 月 17 日：館林保健福祉事務所開催 参加者 17 人 <p>(2)青少年世代対象研修</p> <p>学校関係者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 7 月 22 日：群馬県総合教育センター 新任校長研修 参加者 109 人 ・平成 22 年 8 月 6 日：新規採用養護教員研修 参加者 68 人 <p>(3)中高年世代対象研修</p> <p>労働関係者等研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 7 月 13 日：群馬県自動車販売健康保険組合研修会 参加者 51 人 ・平成 22 年 11 月 24 日：健康保険組合連合会群馬連合会研修会 参加者 22 人 <p>司法書士会等研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 7 月 24 日：群馬司法書士会ゲートキーパー養成講座 参加者 60 人 <p>民生委員等関係者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年 2 月 9 日：沼田市民生委員児童委員協議会研修会 参加者 125 人 <p>(4)高齢者世代対象研修</p> <p>介護関係者等研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 5 月 31 日：草津町地域包括ネット 介護支援専門員研修会 参加者 19 人 <p>(5)医療関係者等研修</p> <p>かかりつけ医うつ病対応力向上研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年 2 月 27 日：県医師会と共催、県庁ビジターセンター 参加者 57 人 <p>(6)保健関係者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 4 月 27 日：下仁田町保健推進員会議 自殺予防講演会 参加者 110 人 ・平成 22 年 7 月 21 日：玉村町保健推進員研修会 参加者 33 人 ・平成 22 年 9 月 30 日：藤岡市健康推進員研修会 参加者 79 人

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 12 月 15 日：藤岡保健福祉事務所 自殺対策研修会 参加者 46 人
5 自殺未遂者 ・自死遺族への支援	<p>(1)自死遺族相談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第 1 火曜日 <p>平成 22 年度 相談者数 11 人</p> <p>(2)自死遺族交流会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第 2 金曜日 <p>平成 22 年度 参加者数 実 13 人 延 33 人</p> <p>(3)自殺未遂者支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急指定病院との連携による未遂者支援（情報提供 3 件）
6 自殺予防等 に取り組む民間団体との連携・支援	<p>(1)NPO 等関係団体との連携</p> <p>講師派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年 8 月 19 日：NPO 法人こころの応援団勉強会、参加者 35 人 ・平成 22 年 11 月 18 日：NPO 法人こころの応援団勉強会、参加者 28 人